



じょうずにとべたよ！（東小歓迎遠足）

こんにちは！
議会です

No.110

はさみ

平成22年5月号

《長崎県波佐見町議会》

子ども手当支給決定2

行動する委員会

心あたたまる話4

一般質問6

はさみ温泉「湯治楼」

4月26日オープン



00万円でスタート!!

9,480万円! 4.5%増

平成22年第1回定例議会

3月3日から3月19日までの17日間の会期で開かれました。

一般会計予算・特別会計予算・企業会計予算など、合計15件、条例会計8件、その他の議案10件は、すべて原案のとおり全会一致で可決しました。

一般会計予算については、予算特別委員会を設置し集中審査を行いました。

《歳入》

○固定資産税は前年比4360万円増の5億8290万円

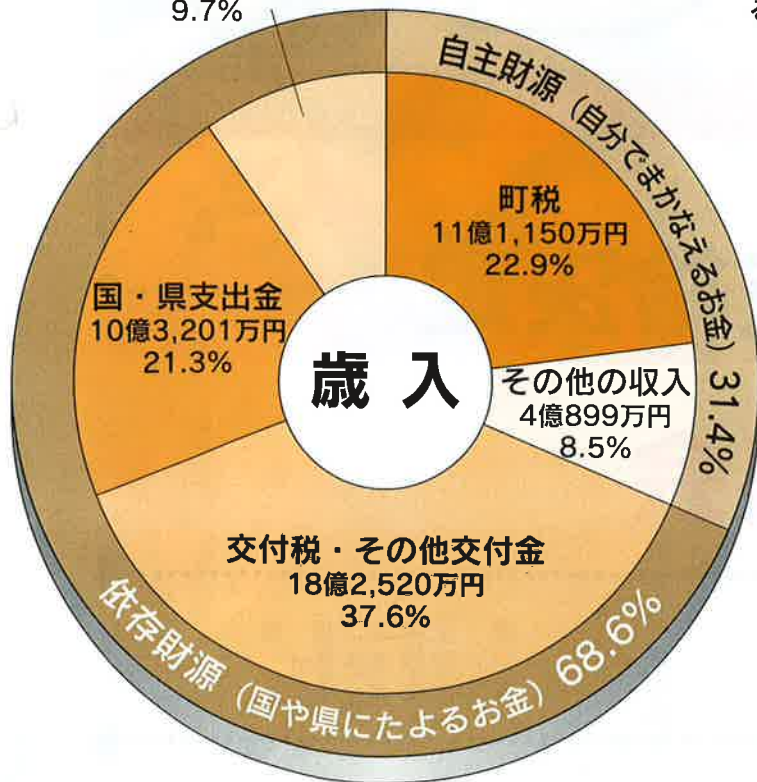
長崎キヤノンの工場用地等への課税や、町内で宅地転用が増加したこと。家屋についてはアパート等の建設増。

○町民税は景気低迷の影響を考慮し、1.7%減の4億2430万円。

○普通交付税は前年度と同額の15億5000万円を計上。

○諸収入で産炭地域活性化補助金1000万円を工業用水のさく囲工事に、また、ミニポートピア長崎波佐見からの環境整備協力金を1500万円見込んでいる。

町債（借入金）
4億6,830万円
9.7%



算の内訳 ●

ミニボートピア長崎波佐見

8月オープン予定



完成予想図

(▲減)

平成22年度 歳出分	予算額	前年度増減額	増減率	
一般会計	48億4,600万円	▲2,200万円	▲0.5%	
特別会計	国民健康保険事業	17億7,810万円	2,990万円	1.7%
	老人保険事業	240万円	▲192万円	▲44.4%
	後期高齢者医療	1億3,291万円	1,221万円	10.1%
	介護保険事業	8億6,595万円	4,568万円	5.6%
	公共下水道事業	4億1,607万円	▲4,300万円	▲9.4%
	工業団地整備事業	9,940万円	9,940万円	皆増
企業会計	上水道事業	4億2,415万円	▲5,360万円	▲11.2%
合計	85億6,498万円	6,667万円	0.8%	



一般会計当初予算48億4,600万円

特別会計は合わせて32億

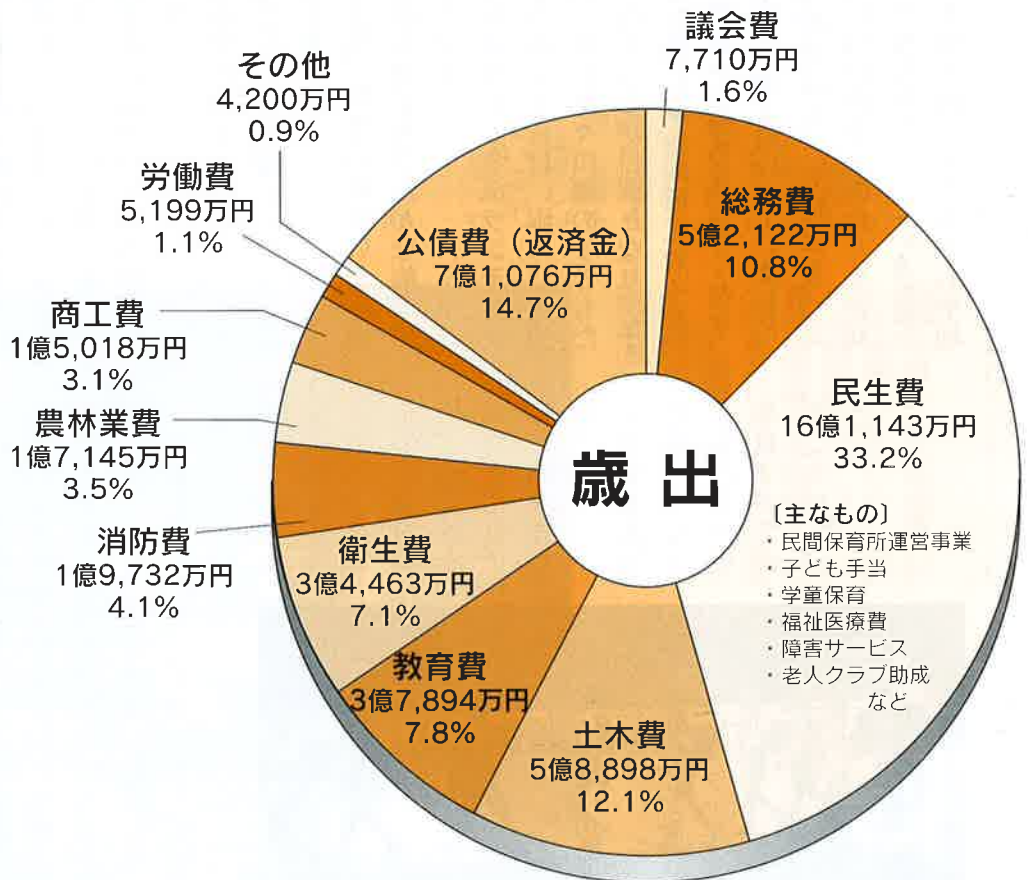
◇工業用水対策事業に2500万円を計上。

◇高齢者福祉ではさみ温泉の施設利用券が65歳以上の方に配布されます。

◇今年度から創設される「子ども手当」が2億7508万円、代わりに「児童手当」が1億536万円の減。

◇新規事業では

《歳出》



● 一般会計予

事務報告 調査報告

委員会

文教厚生委員会

東彼地区保健福祉組合

施設運営状況視察

斎場の火葬炉は、老朽化による損傷が目立ち、応急的に修理が行われている。

今後は、現代人の体型に合った炉の大型化も含め、大規模な改修を検討しなければならぬ。

清掃工場のゴミ焼却炉については、耐用年数が平成29年になることから、処理の広域化計画に基づき、建設計画の協議が急がれる。

環境センターは、環境に配慮した施設で問題はなく、特に最終処分て排出される「東彼コンポ」は、肥料として人気が高く無料で配布されている。

養護老人ホーム「ひささ荘」の施設は、老朽化の進行が著しく、特に空調設備がないため、夏・冬の生活環境は非常に厳しい現状であった。

川棚町に場所を移転させ新設される。平成23年度の完成が待たれる。

心あたたまる安全パトロール犬「チロ」

文教厚生委員会では、キヤノンの操業等で懸念される通学時の安全対策についても調査しています。特に子どもたちがお世話になっている安全ボランティアの皆さんには頭が下がる思いです。

ここで東小学校の安全ボランティアのいん(犬)として活躍した「チロ」の話を紹介します。

「チロ」とは、捨てられていた仔犬を湯無田郷の小林正男さんが家族同然に育てた愛犬です。

小林さんが東小の安全ボランティアの一員となられてからは、雨の日も風の日も毎朝、共に野々川郷の子どもたちを迎えに行くことが日課となり、子どもたちより先に集合場所に着くと、みんなが集まるのを待ちきれなくなり、上の方まで走って迎えにいっていました。登校を開始すると、先頭になったり、最後尾についたり、あたりを警戒しながら子どもたちを守っていました。そんな「チロ」は、子どもたちや地

域の人から愛され、安全ボランティアの皆さんが着用されているベストを野々川郷の保護者からプレゼントされ、喜んで着用し、新聞等にも「安全パトロール犬」として取り上げられました。

しかし、そんな「チロ」も年には勝てず、2年程前に天国へと旅立ちました。

東小では、追悼集会を行い、感謝状を小林さんとチロに贈りました。

今でも元気に登校する子どもたちの姿を見守っていることでしょう。



ありがとう「チロ」

委 員 会 行 動

総務委員会

自治会の未加入問題

平成21年度末現在、自治会の未加入世帯数は約340世帯である。1月15日、本町の文化会館において自治会とアパート管理者および、建設会社による意見交換会が開かれた。宿・折敷瀬・湯無田・田ノ頭・金屋・稗木場・村木など7地区から出席があり自治会加入の状況を把握した。

今後、環境づくりの一步として、小中学校等の生徒や保護者・地区の方々など若い世代と一緒に集えるボランティアなど進める事が重要である。



アパートの増えよんなあー

産業建設委員会

町道整備の現状と今後の計画について

21年度当初は、町道もちうたに孟宗谷線（野々川郷）他8路線と線越事業として井石本線、川内本線他2路線の合計11路線について改良及び舗装の計画であった。現時点では17路線が施工済みおよび施工中となっている。事業進行に当たっては、限られた予算を有効に活用し、継続路線の早期完成や緊急性・危険度の高い路線の施工に努めている。また、一部路線については補助事業としての要望を行っている。

今後の計画として、地域からの改良工事について多数の要望がある。

22年度からは町道に対する新たな事業の要望もしており、事業量の拡大も望まれる。一部道路面に立ち木がかり、通行に支障をきたしている所があり、調査し予算化が必要。その他、緊急を要するところもあり、積極的に取り組む必要がある。



もうちょっとで完成ばい（町道川内本線）

議員活動

- 3月1日 波佐見高校卒業式
- 3月19日 3月定例会
- 16日 中学校卒業式
- 18日 小学校卒業式
- 19日 議会全員協議会
- 26日 東彼地区保健福祉組合議会定例会
- 29日 議会運営委員会
- 4月6日 交通安全祈願祭
- 7日 波佐見中学校入学式
- 7日 議会運営委員会
- 8日 小学校入学式
- 8日 波佐見高校入学式
- 9日 議会広報調査特別委員会
- 11日 町婦人会文化祭・総会
- 14日 高齢者いきいき大学開講式
- 15日 議会全員協議会
- 16日 議会定数調査特別委員会
- 18日 ふれあい運動会
- 22日 郡町村議会議長会総会
- 25日 町身体障害者福祉会総会
- 25日 隊友会波佐見支部定期総会
- 29日 ロードレース大会
- 4月29日～5月5日 波佐見陶器まつり
- 5月9日 町母子寡婦福祉会総会
- 13日 郡防犯連絡協議会総会

※色文字は町内行事等で自主参加。

質問

施策を問う!



武村龍宏議員

- 環境問題に住民意識を高める施策を!
- 収容避難所22ヶ所の耐震化は!

問 安心安全に環境問題は大事、温暖化対策協議会設置、実行計画策定についてどう進めるのか。

町長 町の事務事業から生じる温室効果ガスの削減を進める。今年度中に、波佐見町地球温暖化対策実行計画を策定する予定である。

問 町の防災計画書に言う避難施設の安心安全についてはどう言えるのか。

町長 計画に言う町の施設はすべて安心・安全な施設と言える。

総務課長 9ヶ所の町の施設は耐震化ができて安心だが、各自治会施設の耐震化には相当の金額も要する。今後、研究課題として進めていく計画。

問 勤労福祉会館・内海産業会館などに有事の場合、避難をうながすと思う。避難施設として耐震化について自治会や関係者に今後どのように示していく考えか。

総務課長 町の補助制度で対応できる事だと考える。多額の費用を要するので、今後の研究課題としていく。

問 下水道事業見直しを言

われるが、湯無田郷中心区域の汚水、雨水管渠整備事業はどう行うのか。

上下水道課長 雨水対策の事業は22年度で一通り終わる計画である。浸水被害が改善されたか、実情を確認して地元の方々とも協議する事で今後の方針を立てたい。

問 地域の現状、関係者の要望に依って現地調査を行う事はどうか。

副町長 地元の実情も聞いている。今後の開発といった事も含めて要望もあつている。関係課も一緒に現地を見て対策を立てる考えでいる。

避難施設	所在地	電話	収容可能人数	建設年度
1 内海産業会館	湯無田郷	85-2150	130人	S37
2 東小学校体育館	湯無田郷	85-2061	450人	H15
3 井石多目的研修施設 (井石郷公民館)	井石郷	85-5984	100人	S60
4 勤労福祉会館	井石郷	85-2214	265人	S56
5 金屋コミュニティーセンター (金屋郷公民館)	金屋郷	85-5938	100人	S62
6 折湯集落センター (折敷瀬郷公民館)	折敷瀬郷	85-2292	130人	S55

収容避難所一覧表 (22ヶ所のうち6ヶ所)

- 波佐見高校に新しいカリキュラムを!!
- 原マルチノ・隠れクリシタンをもっと活用せよ!!



藤川法男議員

問 他校に地元の高校が後れをとってはならない。講師の先生など迎え勉強する機会をぜひ作ってほしい。

教育長 長崎キャンソンの開業で町民の方々の要望が拡大し、それを裏付けとして県に要望は可能である。現状では非常に難しいと思うがそれも一つの方法と考える。

問 本町は行政改革を進め少ない職員数で努力している。将来、人口増加にどう対応するのか。

町長 行政改革は他団体に先駆けて実施してきた。今後は、多様化する行政ニーズには臨時職員で対応する考えでいる。また、必要であれば正規職員の増員も視野に入れたい。

問 正規職員の採用となると当然ながら試験等もあるが、それ以上に生まれ育った波佐見町に愛着のある町内の方々の採用も考えて欲しい。

町長 配慮はしているが、能力や資質など優秀な人材を採用する事も一つの私

問 長崎キャンソンの企業進出に伴い、波佐見高校で、精密機器や電子工学など、新しく学ぶ事を県に働きかけはできないか。

教育長 波佐見高校の普通科等に工業系のカリキュラ

- 住まいの応援団！
県営住宅の建設誘致はどうか
- 人命を守る
防災訓練の計画はあるか



松田宇子議員

問 企業進出により人口増加も見込まれる。将来の支援対策として県営住宅の建設を誘致し、備える計画はないか。

町長 人口増加の受け皿として有効な手段の一つと思

うが、民間活力に期待する。

問 民間の努力は承知している。住居は不足気味である。今後、新たな町営住宅を建設する予定が無いのなら県に委ねるのも一つの方法ではないか。

建設課長 県は計画に基づき建設、改築等を行っている。現状での誘致は厳しい。

町長 過去に県営住宅供給公社の問題等もあり、今の状況では努力しても難しいと思うが、時間があれば打診や意向など聞いてみる。

問 住民を災害から守る防災訓練は重要な施策である。災害を想定した訓練計画はあるか。

町長 必要性はあると認識している。町民全部を巻き込むとなれば大変な計画となる。今後、検討したい。

問 自主防災は大事である。訓練を通して必要性は浸透していく。町全体ではなくモデル地区を設定して行う考えはないか。

総務課長 何らかの形で訓練は必要と思われる。



地域指定等を含め訓練の規模などを、今後検討していきたい。

問 地域防災計画に記載中の避難所、収容所一覧表には指定されていない地区もあるが、それはなぜか。また避難場所の誘導案内板の設置は検討されてきたか。

総務課長 避難所、収容所

については毎年見直しをしているので検討したい。

町長 宝くじ協会に申請したが、クリアすべき要件が多く対象として認められなかった。他の助成も含め検討していきたい。

その他の質問

・第二子の保育料の無料化について

ちの役目である。

問 町の特産物（お茶・米・器など）を販売するには、実際に存在した原マルチノや隠れキリシタンなど販売促進に活用できないか。

町長 行政は戸籍や税務・

福祉という仕事であり、そういう考えはできない。ぜひ民生活を生かして頑張っていたきたい。しかし、その発想を支えていくサポートが今、行政に求められている。



がんばれ波高生



おいも応援するばい



松尾道代議員

● どうなっている! 緊急生活支援 ● 康津郡 (韓国) 協定の締結は必要なのか

だけ早い時期に実施したいと思う。

従ってタクシー券の発行は考えていない。

問 国の雇用対策支援の実態と、委託事業に対しては「町民の雇用を」と指導しているのか。

町長 現在、緊急雇用は全員町内からで3事業に7名、ふるさと雇用は3事業11名だが、町外からもある。できるだけ町内からの雇用をお願いしている。

問 町の臨時職員の募集に年齢制限がかかっていた。雇用対策法が改正され設けることはできないはずだが公務員は適用外か。

総務課長 国家公務員・地方公務員については適用を除外するという項目がある。しかし、雇用対策法の趣旨があるので、今後はできるだけ広く機会を与えるような形でやっていきたい。

問 個人の生活もますます苦しくなっている。

社会福祉協議会で扱っている生活資金の貸付は手続きが多く日数も要する。

町長 コミュニティバスの運行を検討する。できる

問 長崎キャノンの本格的操業に伴い、現在2社の関連企業が進出している。

本町は新たな企業進出を想定し、町内の用地や空き工場の調査を行っているが、問い合わせはあるのか。

キャノン関連企業の 新たな進出は……



今井泰照議員

町長 新たな進出については、現在のところ具体的にはないが、これまでの県や関連企業の情報として、7社程度の進出が見込まれるのではないかとこのことである。

問 町営工業団地が24年度の完成を目指しているが、以前のように県への職員派遣は考えていないのか。

町長 財団法人長崎県産業振興財団への派遣は今回考えていないが、これまでと同様、県との連携を密にして、県職員の企業訪問等に合わせ、町職員も同行させるなどして、積極的な誘致活動に努めていく。

消防問題について

問 各自治会においては分団の運営を支援するため消防費を支給している。

一世帯あたりの徴収額はさまざまで、特に住民が少ない自治会ほど負担額は多い。

本町として格差をなくすための施策は考えられないか。またそういう意味におい

て報酬の見直しは考えられないか。

町長 それぞれの自治会ごとの歴史がある消防団支援費であり、町として指導はできないと思う。

消防団員の報酬については、現在のところ改定の計

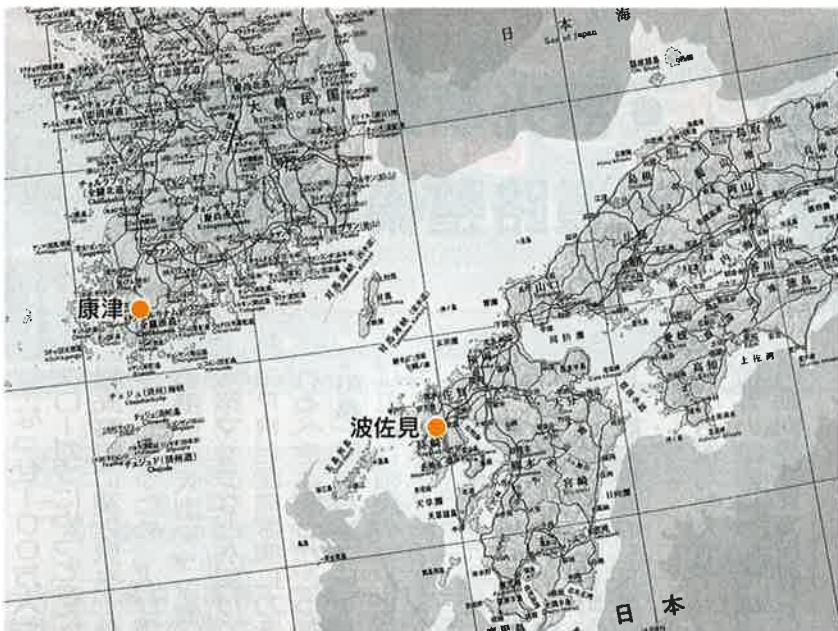
面はないが、他の特別職との関連もあり、総合的に検討していきたいと思う。

その他の質問

・キャノン操業に伴う通学時の安全対策について
・パソコン教育について



放水はじめー!



補助金の活用？ ほんとによかとな

る町民への貸与を、ワンストップ行政で行うことはできないか。1回の手続きで完了し、心の負担を最小限にして安心を最大のサービスタとするものができないか。

副町長 現在、社会福祉協議会での対応がワンストップだと思っている。ただ、もう少し簡略化していくよう要望をしたい。

問 韓国、康津郡とは民間の交流がスムーズに始まった今、友好交流協定の締結は必要性があるのか。

町長 双方の議会の同意も得ているし、今更必要ないとは言えない。協定を結ぶことにより、国・県の補助金も活用できる。

問 旧講堂が登録有形文化財に登録されたがその管理、活用をどのように図るかを地元自治会・各関係者と協議するとともに仮換地の変更、西ノ原土地区画整理事業の規模縮小案の提案をす



福田洋吉議員

- 旧講堂の管理活用について関係者と協議し、西ノ原土地区画整理事業規模縮小案を明示するべきでは
- 中尾山の煙突群を文化財として申請するべき

ることは千載一遇の好機ととらえ、早急に協議に入るべきではないか。

町長 旧講堂の管理活用については関係機関と協議しなければならぬ。町民の意見も聞きながらよりよい利活用が図られるよう検討したい。規模縮小案の提示については、事業の長期化により建築規制等、支障をきたしているのを見直しが最善策ととらえているが、具体的な方針決定に至っていない。

問 具体的な縮小案がなければ学識経験者等を交えて国・県の考えも聞き早めにテーブルに着くよう努力すべきでは。

町長 学識経験者を入れる前段が大事である。こういう時、議員の皆さんに水面下での話し合いをする環境作りに力添えをいただきたい。

問 役場内には町の頭脳・心臓と言える重要書類や機器が管理・保管されている。庁舎の耐震対策は万全か。

総務課長 公共施設の耐震化は役場庁舎を除き全て完成する。庁舎は早急に調査



し耐震化を実現したいと思う。

問 中尾山には建造されて50年を経過していると思われる煙突が立っている。一連の煙突群を本町観光のシンボルとして、後世に継承すべく登録有形文化財として届け出るべきでは。

教育長 8本のレンガ造り

の煙突は平成16年長崎県まちづくり景観資産に登録されている。8本まとめて煙突群として一括申請が町内外に強く印象づけると考える。建造年を見ると2本が基準の50年をクリアしていない。すべてが基準を満たした後に申請するのが最善と判断する。

早く文化財に登録を

● 観光事業の振興は！
● 道路整備の対策は！



松林一夫議員

問 観光事業の振興について町内において多くの事業（温泉施設やミニポートピアなど）が進められ、観光客や来町者がかかり増える予想される。これまで

「来なつせ100万人」をスローガンにやってきたが、観光客等に波佐見を十分知ってもらうため、人が集まる拠点に大型マップ看板、散策マップなどを設けて町のPRと産業振興に力を入れるべきと思うがどうか。

町長 観光パンフレット等は町内各施設やコンビニ等に配布して、来町者への案内と誘導に努めてきた。今後、新たに整備される施設にも観光パンフレットなどを配置し、引き続き町のPRと観光物産のPR等に努めたい。

なお新たな大型マップ看板等の設置については今後の動向等を見て検討したい。

道路整備の推進について

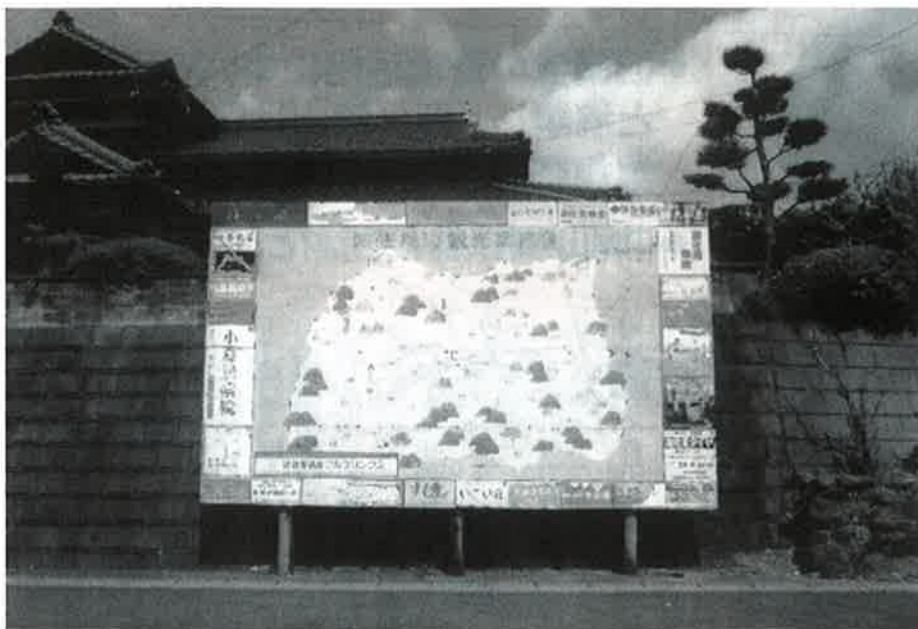
問 長崎キャノンが操業され、温泉施設も近くオープンする。

今後、町内通行の車両等が増え混雑が予想される。

その対策として、県道・町道の拡幅や補修などに今まで以上に予算措置を積極的に図る必要があると思うが、

町長 県道については、毎年数回、継続路線の早期完成や未着手区間の早期着工、さらには地域からの要望も含め、緊急順位等、総合的に考慮し要望を行っている。今後も交通安全・生活環境の向上、地域経済の発展を

図るため、引き続き県へ要望を行う。町道については、本年度は21年度当初予算と比較し、約155%となっている。今後は継続路線の早期完成や緊急性の高い路線の整備を図る計画である。



大型看板の設置を

● 地元商店振興は
● 交通安全を図れ
● 万年橋改築の方策は



中村與弘議員

問 全国的な経済の停滞に、昨年は振興券の発行が行われた。今年は考えているのか。

町長 昨年の発行事業は、国の定額給付金が交付された事に伴い、給付金をでき

る限り地域商店で利用するための手段として、商工会が中心となって取り組まれた。現段階では町独自に再発行の考えはない。

福祉バス運行を町民の方々は待っているが。

町長 今回、波佐見温泉施設がオープンすると施設の利用機会も増え、町民の方々の行動範囲も広がる事が予想される。町としても福祉バスの運行ができないか関係会社等にも話を持ちかけている。しばらく時間を要するものと判断している。

交通量の増大に伴う交通網の整備について。

町長 横枕交差点等の安全確保のため、関係機関と連携を図る必要があると思う。

問 校区変更を考える時、飛瀬橋を造ることで通学路の安全が確立されるものと考ええるが。

町長 新しく橋梁を建設するには費用対効果、財政的な問題と十分な調整、研究が必要であり、総合的に判断しても大変難しいと考え



原 昭治議員

横枕交差点に 音のでる信号機と 橋の歩道に反射板を

問 キヤノン操業に伴いつに横枕交差点や、宿交差点の交通渋滞や事故が懸念される。
地元自治会やPTAは現在登校時の安全指導を毎朝されているが、横枕交差点

では接触事故等が発生し、安全対策が急務である。関係機関との協議など事故防止の対応策は万全か。
町長 操業開始された3月3日に宿と横枕交差点において車の交通量を調査した結果、約200台の増加があった。

4月からは本格的な操業に入ることから、車の増加が見込まれる。

新学期開始に向けて対応を図り、関係機関・団体等との連携を密にし、対策会議を開催して交通事故防止に万全の態勢でのぞむ。

問 横枕交差点では大きな事故が2件発生し、地域の方も心配されている。そこで、再発防止のために音が出る信号機に出来ないか。

総務課長 交差点では死亡事故が起きており、警察もそこを重点的に今調査をしている。

問 中学生の車での登校が多い。キヤノンの通勤時間と重なるが、何か対策は考えているのか。

教育長 学校の考えは1km

以上歩かせる。学校まで送らないで途中で降ろして少しでも歩かせることを一つの方策として具体的に保護者にお願している。
問 横枕橋の歩道に道路構造がわかるよう反射板の設置ができないか。

建設課長 横枕橋の歩道は狭いので、今後交通量、歩行者が多くなるため、必要になれば状況をみて早急には警察と協議し、早急に対応したい。



事故が多発している横枕交差点

問 万年橋の件で進捗状況は。
町長 一昨年4回、昨年2回面会に行ったが会えない。電話も応答がなく、手紙作

戦もしている。強制執行との声もあるが、県によると事業がもっと遅れるとのことだった。



万年橋はどがなっつとつ

私もひとこと



消防人として33年8月

消防委員長（前消防団長）
永尾郷 江添三光

今、消防団の問題点は、団員の確保だと思われます。私が入団した当時の昭和30年、40年代は窯業界も景気が最盛期の時代で、周りには窯業界で働く方、また農業をされている若い人達と、大変人材の豊かな時代で、地区で働き地区の人で団員確保が出来ていたのですが、現在では、町外に働きに行っている人が多く、昼の災害が消火活動に支障のない事を祈るばかりです。

災害は町民皆様一人ひとりが自分の家は自分で守る、地域は地域で守るという事が基本であります。どうか防災の意識を高めて災害を未然に防ぐ努力をして頂き、また団員の確保にも、地域の皆さんの理解もとに近所や家族におられたら、ぜひ勧めて入団を促して

もらいたいものです。消防組織の運営は時代と共にその時代の若者が防災の防人として担ったように、今は今の若い人達が担っていかなければ、波佐見町の防災活動は出来ないだろうと思います。どうか消防団は時代、時代の順送りだと理解して頂き、奉仕の精神と郷土愛に燃えた若者が入団する事を期待します。これからも安全で安心して暮らしてもらえようように、消防団活動に協力していきたいと思っております。

消防団員は、「団結・規律・使命・信頼・友情・勇気・誇り・情熱・奉仕・郷土愛」の消防十訓を基本として活動しております。

ご支援よろしくお願い致します。

次の定例会は
6月15日からの予定です



編集後記

通学路に黄色い帽子が踊っています。

新一年生は130名、登校に慣れ余裕の笑顔！

私たちの編集作業も賑やかです。

前号より方言を少し入れ、より親しまれる広報紙をと、作業を進めるなかで「いっちゃん・訳んわからん」、「もうひらがいな！」と方言が飛び交い時間が流れていきます。

ようやく出来た110号をお届けします。

ご意見ご要望をお寄せください。

松尾道代

議長 松添 一道
 議会広報調査特別委員会
 委員長 松尾 道代
 副委員長 松田 宇子
 委員 今井 泰照
 藤川 保則
 尾上 和孝
 川田 則男